

事務所 〒690-0874 松江市中原町167-1-3F TEL 21-6143 FAX 31-8985
HP: <http://www.matsue-rotary.jp> E-mail: office@matsue-rotary.jp

第 3494 回例会 (令和 8 年 5 月 20 日・水)

今週のプログラム

5月20日(水) ゲストスピーチ
「地域の暮らしを守る 保険医療の展望」
松江市・島根県共同設置松江保健所
かたおかだいすけ
所長 片岡大輔氏

次週のプログラム

5月27日(水) ゲストスピーチ
「しょうゆと人と麺」
いばら ゆう
松島屋旬取締役 井原 悠氏

●例会変更のお知らせ

月 日	クラブ名	受付場所
5月20日(水)	大 社	出雲商工会 (旧大社商工会 大社町梓葉南1344事務局)
5月25日(月)	出雲中央	出雲イヤルホテル内事務局
6月16日(火)	松江しんじ湖	ホテル一畑
6月18日(木)	松 江 東	ホテル一畑
6月22日(月)	松 江 南	松江エクセルホテル東急
6月22日(月)	出雲中央	出雲イヤルホテル内事務局
6月23日(火)	松江しんじ湖	ホテル一畑
6月25日(木)	松 江 東	ホテル一畑
6月29日(月)	松 江 南	松江エクセルホテル東急
6月30日(火)	松江しんじ湖	ホテル一畑

・・・結婚月・・・

堀江 貴会員 3日	藤原 孝行会員 3日
今井 直樹会員 8日	後藤 勇会員 10日
内田 寛会員 14日	景山 直観会員 15日
信太 秀夫会員 17日	谷口 正人会員 19日
原田 光明会員 22日	櫻井 誠己会員 24日

2026年5月～6月の予定

- 5月27日(水) 新旧クラブ協議会 会場：大橋館
- ★ 5月27日(水) バイキング形式の食事
- 6月3日(水) 定例理事会
- 6月17日(水) 最終夜間例会 18:30～
ホテル一畑 平安
※昼の例会なし

第3493回例会記録

令和 8 年 5 月 13 日 (水・晴れ)

	会員数 (人)	出席者数 (人)	欠席者数 (人)	出席率 (%) (出席免除会員含む)	前々回補正 (%) (出席免除会員含む)
松江クラブ	59	46 (リアルタイム)	13	83.64	85.45

メーカーキャップ：山田 (松江南)、目次、山崎 (理事会)

会務報告

後藤 勇会長

- ゲストスピーカー紹介
島根県立古代出雲歴史博物館
主任学芸員 小田七奈様
- 衛星クラブ 4名出席
- 新会員の紹介
お名前：溝部 厚様
事業所：松江土建(株) 執行役員経営企画室長
職業分類：総合建設
推薦者：後藤 勇会員、
佐藤尚士会員
後藤会長から紹介
溝部 厚様 ご挨拶
名札とバッジお渡し



の方で、提出がまだの方は至急、事務局まで。

- 例会終了後、定例理事会開催

委員会報告

- 親睦出席委員会 山根 睦副委員長
出席報告

プログラム

「リニューアルオープン目前！
古代出雲歴史博物館のみどころ講座」
島根県立古代出雲歴史博物館
主任学芸員 小田七奈氏



友塚順子幹事

- 次年度の運営計画書を作成中です。
次年度の委員会の計画書の提出のまだの方は、至急事務局まで提出をお願いします。
- 次年度の会員名簿の訂正のある方、写真の変更希望

ニコニコ箱

19,000 円

後藤 (①ゲストスピーカーの出雲歴史博物館 小田七奈様のスピーチに。②松江土建の溝部厚新会員の入会に。)

小林 (小田学芸員様の話を楽しみに。)

福田 (ゲストスピーカーの小田様のスピーチに。リニューアルオープン楽しみにしています。)

加藤 (BDお祝いありがとうございます。ところで、皆様「ギュられる」という言葉をご存じですか? 人間の仕事を生成AIに代替されるシンギュラリティから来ているそうです。66になりますが、「ギュられない様」がんばりましょう!)

目次 (しじみデモクラシー拝見しました。大変なご苦労だったことを認識致しました。福田さんに敬意を表します。)

谷口正 (拙文掲載 ありがとうございます。)

森岡 (出席100%賞)

加藤 (誕生月)

景山、友塚、大谷浩 (入会月)

ベストメッセージ賞：該当なし

司会 白根澄男会場監督

【5月理事会報告】

承認事項

- ・新会員所属委員会の件
木内友也会員、溝部厚会員は親睦出席委員会
- ・2026-27年度理事役員委員会構成表 変更の件

審議事項

- ・宝塚RCから6/5-6松江訪問の件
- ・2027-28年度ロータリー青少年交換派遣学生の件

新入会員紹介



氏名
入会日
推薦者
在籍していたロータリークラブ名

みぞべ あつし
溝部 厚
2026年5月13日
佐藤尚士会員・後藤 勇会員
なし

松江ヤングリーダーズロータリー衛星クラブ5月単独例会

2026年5月11日(月) 10:45~12:30 安分亭

	会員数 (人)	出席者数 (人)	欠席者数 (人)	出席率 (%)
衛星クラブ	11	4	7	36.36

■ 出席者：9名

内藤葉子議長、上田まり子会員、片寄洋子会員、古安勇太会員、仙田利夫会員、桑原正樹会員
伊藤宏樹会員、加藤 令会員、目次真司会員（スポンサークラブ）

■ 報告書：衛星クラブ5月例会

地域課題を事業で解決する「捨てられる命」から地域資源への転換

1. はじめに

元管理栄養士であり、島根県への移住者でもある森脇氏は、現在、八雲町にある熊野大社の駐車場のところで「安分亭」というジビエ料理を提供する飲食店の経営もされています。高齢の農家の方々が発行していたレストランを引き継ぐ形でオープンしたこの店舗では、自ら解体に関わったジビエ肉を中心に提供し、消費者と命の価値をつなぐ拠点となっています。例会では、行政課題である鳥獣被害に対し、民間ビジネスの視点と強い使命感を持って立ち向かう同氏の活動の原点と事業展開についてお話しいただきました。



2. 鳥獣被害の現状と「捨てられる命」

島根県内では近年、農作物被害を防ぐための「有害鳥獣捕獲」が急増しており、年間約16,000頭、松江市内だけでも約1,600頭のイノシシが捕獲されています。従来の狩猟が「山の恵みをいただく」目的であったのに対し、有害鳥獣捕獲はあくまで「被害を防ぐ」ことが目的です。そのため、特に脂が少なく価値が低いとされる夏場のイノシシは、処理の手間や気候の問題もあり、捕獲された大半（約9割）が食肉として流通することなく、そのまま穴に埋められ廃棄されているという過酷な現実があります。



3. 活動の原点：「生かす」への強い使命感

森脇氏が現在の活動に本格的に取り組む最大の契機となったのは、この「廃棄される現状」を現場で目の当たりにした際の強い衝撃でした。さっきまで生きていた動物がゴミとして埋められていく光景にショックを受け、「どうにかして地域資源として生かしていけないか」という使命感を抱いたことが、同氏の事業の原動力となっています。

森脇氏は活動の理念として「4つの生かす」を掲げておられますが、その第一に「捨てられていく命を地域資源として生かす」ことを挙げています。この思いを実現するため、当初は起業や狩猟の経験が全くなかった同氏ですが、現場の猟師たちと同じ土俵に立ち、命に責任を持つ覚悟を示すために自ら「わな」と「銃」の狩猟免許を取得されました。

4. 理念を具現化する事業展開

「捨てられる命をなくす」という理念は、多角的な事業として形になっています。

- ・ **飲食と加工品による出口戦略の創出**：自身が経営する「安分亭」では、イノシシ肉を「生姜焼き」や「カツ」など消費者が親しみやすい定食メニューとして提供し、ジビエに対する「臭い・硬い」という固定観念を覆す試行錯誤を続けています。また、廃棄されがちな端材肉を活用し、食べやすいフランクフルトや、ジビエ初心者向けのジャーキーなどの加工品開発も行い、命を無駄なく消費者に届ける工夫を凝らしています。
- ・ **専門知識を掛け合わせた新規事業「ニーツ」**：さらに注目すべきは、これまで価値がないとされ廃棄の主な対象であった「夏場のイノシシ肉（赤身）」に着目した点です。管理栄養士としての知見を活かし成分分析を行った結果、夏場のイノシシ肉はエネルギーが低い一方で、鉄分やビタミンB2が豚肉の倍近く含まれていることを突き止めました。この強みを活かし、鉄分不足に悩む女性に向けて、ミンチ肉とレシピをセットで届けるサブスクリプションサービス「ニーツ」という新たなビジネスモデルを立ち上げました。

5. まとめ

森脇氏の活動は、単なるボランティアや行政への協力にとどまらず、社会課題の中に埋もれている「価値」を見出し、事業として成立させようとする経営者としての挑戦そのものです。

農家、行政、猟師、飲食店といった地域の各ステークホルダーを俯瞰し、それらをつなぐ「コーディネーター」としての役割を自ら担おうとする姿勢には、事業を通じた地域貢献のあり方として大変学ぶべき点が多いと感じました。

「鳥獣被害と無関係の人たちにも背景を知ってもらい、当事者を増やすことで、農家に還元し、安心して米が食べられる環境の循環を作りたい」という同氏の最終的な展望は、持続可能な地域社会を構築する上で極めて重要な視点です。我々経営者も、自らの事業がどのように地域課題の解決や社会の循環に寄与できるのか、改めて問い直す貴重な機会となりました。

報告者：議長 内藤 葉子
研修リーダー 桑原 正樹



橋本 晋

2022年11月米国のサム・アルトマン氏が公開した生成AIの一つChatGPTはその後医学界に大きな衝撃を与え続けています。進化したChatGPTは分厚い教科書や専門書を読み込み、長年の臨床経験を積み重ねてきた知識などをすぐに提示します。診断や治療法なども、わずか数行の対話で引き出すことができます。論文作成時の統計解析や、論文の抄読会用の文章でもわずか数秒で好みの長さの日本語要約を返してくれます。大学の教員の多くは（ルールの範囲内で）学生の論文指導と投稿論文の査読にChatGPTを活用しているがその力量は凄まじいとの評価を受けているそうです。そして生成AIの登場は医学界に留まらずありとあらゆる業界に影響を与えてきていることは皆さんよくご存知のことと思います。この現状に関して数年前の「日本内科学会総会」の特別講演で「新産業革命の時代におけるリーダーシップ」と題し日本アイ・ビー・エム株式会社名誉相談役であり当時の経済同友会の代表幹事であった橋本孝之氏の講演を思い出しました。その中でいわゆる「日本の失われた30年」を振り返りこれから日本はどのようなことを目指すべきかということをお話されました。

まず初めに日本人における「危機感の欠如」を指摘していました。

今後世界のどこかでイノベーションが起き、そのイノベーションを日本にどのように取り込むかがとても重要なことであると指摘されました。そして科学技術と基礎研究に関して、日本はこの二つの分野で30年間に大幅に遅れました。原因は若い研究者が基礎研究分野に進まなくなったことを指摘しています。又、様々なことを踏まえ今後人工知能が発展していくとこれからの革新は頭脳の置き換えになって行くと述べています。つまり高度な技術者、高度な専門職の仕事が奪われ一方で新しい仕事が創り出されるようになります。そのためにはどのようなことを準備する必要があるかとして経済界ではいくつかのスキルを身につけることが推奨されています。

一つはよく知られるようになってきている「社

会の課題を見つける能力」。

二つ目はITと医療というように複数の領域の知識を身につけること。

三つ目は古典や哲学、倫理といった「リベラルアーツ」の世界です。

ありとあらゆるところで人とテクノロジーが混在し、人間にしかできないことは何かを考える能力です。哲学というものはアカデミアの持ち物ではなく社会の非常に複雑な事象を解くためのツールであると指摘されました。2025年9月に山陰中央新報に掲載された村上由美子氏の「人にしかできない仕事とは」の中で自分の息子が米国のコンピュータサイエンス（CS）を専攻していて卒業を迎えるが就職に苦戦しているとのことでした。数年前までは「CS専攻は無敵」であるといわれたが生成AIが一部を代替しつつあるとのこと息子さんは4月から哲学と世界史の授業を履修するとのことを書いていたのが印象的でした。哲学に関しましては今の日本社会に対して比較的当てはまる考えは、実存主義の先駆者キルケゴールの「人は自分自身として主体的に生きねばならない」との考え方があり、世間の意見に従う生き方、多くの人に合わせる生き方を強く批判しています。この考えは『学問のすすめ』のなかで我々は「私立」（わたくしが立つ）という自立の精神の志で自分が歴史を作るのだという気概を持たねばならないと説いている考えに近いと思います。又、福沢諭吉は明治維新になる前に「もうこんなものは要らなくなった」と言って刀を全部売ってしまっています。

又同じ頃高杉晋作は当時では考えられなかった、農民、町人などからなる奇兵隊を結成し下関戦争、戊辰戦争など討幕運動で活躍しています。

日本のGDPがどんどん下がってきている現状を考えますといままでの価値観とか経済のあり方では日本の将来はどうなるか、やや心配な気がするところです。失敗を恐れず勇気をもって挑戦する社会に変わることが必要と考えています。

最後になりましたがこの稿が皆様の琴線に触れるものとなれば幸いです。（呼吸器科医）